

新宿文化センターの運営に対する意見・評価等

◇ 懇談会での主な意見

1 新宿文化センターの今後の方向性

- ①文化センターの当初の理念を踏まえて、どう変えていったら新宿の文化芸術の創造・発信とか、民(みんな)の力を発揮するとか、人々を惹きつけるとか、潜在力を顕在化するというような方向性につなげることができるか、そうした視点からの議論が大切である。
- ②厚生年金会館、コマ劇場が閉鎖される中で、新宿の文化の場の新たな展開が図れるような議論を新宿文化センターとの関係では行っていくべきである。
- ③新宿文化センターの大ホールは自分たちの財産。区の手を離れることのないように。
- ④財団統合後の留意点として、財団全体のこととホール運営とは、きちんと分けて議論することが重要。文化センター内についても、大ホールと施設全体では違った視点で考え方を整理していくことが必要である。
- ⑤大小ホール、展示室、会議室等をフルに活用し、いろいろな文化体験を実施すれば、人のつながりや新たな発信ができ、ホールの特色になる。
- ⑥中ホールがないため、演劇には使いにくい。その点は、区民ホールが補える。文化センターと区民ホールの一体的な運営が検討できないか。
- ⑦新宿駅の1日平均352万人の乗降客からみれば文化センターは利用拡大の可能性はある。例えば24時間開館しても利用者があるのでは。
- ⑧ホールに方向性を持たせ、活動していく場合、芸術監督や専門スタッフ等、「目利き」ができるスタッフを配置していくことが大切である。
- ⑨専門に特化した場合、排除される分野も出てくる。財団統合で利用者が広がる可能性もあるので、オープンな文化拠点としてはどうか。
- ⑩著名な芸術監督等を置けば集客等でメリットがある。一方、設置者や区民との意思疎通という点での危惧もある。
- ⑪親子や高齢者等、家族や年代等を具体的にイメージした事業展開が、ホールの特色となるのではないか。また、休んだり、遊んだりできるスペースも必要ではないか。レストランもより魅力的なものに工夫すべきである。
- ⑫子どもたちの発表の場として、文化センターのような檜舞台に立たせるということも重要。
- ⑬音楽等、芸術のコンシェルジュのような役割を担えないか。
- ⑭館内の彫刻や絵画の見せ方を変えたり、特定の空間の活用を文化芸術団体に任せたりする等、施設内の風景を変えるような工夫も必要ではないか。
- ⑮あのホールで観てみたい、あのホールでやってみてみたいと思われることが重要である。
- ⑯文化芸術情報の送受信の拠点として、新宿文化センターは期待できるのではないか。
- ⑰テレビ局等との連携も模索してはどうか。

2 大ホールの運営、ホールの特性や個性となっている分野の伸長、(財)新宿文化・国際交流財団の主催事業のあり方、新宿文化センターの認知度等

- ①大ホールを使用して財団が主催している事業の平均入場者数は783人/1802席に止まっており低調だ。
- ②全国的に、貸し公演の入場者は増加しているのに対し、自主公演は減少している。観衆は自分が良いと思うものをきちんと選ぶようになっている。
- ③現在の文化センターでは、プロのオペラやオーケストラの公演は期待できない。声楽や合唱等、ホール特性に合った分野に力を入れるべきである。
- ④なぜこの大ホールでやるのか。また、公のホールでやることの意味をしっかりと説明できるようにしていくことが大切である。
- ⑤主催事業は結構良いものを行っている。だが、それがうまく発信されていない。
- ⑥歴史博物館等、区の他の施設の事業で、文化センターを積極的に活用し、他の分野の来場者を取り込む努力をしてはどうか。
- ⑦認知度は70%あるのに、利用度は37%しかない。知っていても来ない人が多い状況にある。
- ⑧施設の個性を発揮した創造・発進を行うと、さまざまな志向の人たちが集まり、良い循環が生まれる。
- ⑨最近、音楽の好みや志向も多様化している。特定のジャンルだけでは捉きれない。アクセスの拡大になっているのかどうか、現状を把握するために、利用データの分析は非常に重要。

3 活動・発表の場、練習・稽古の場の不足への対応

多くの劇場・ホールが閉鎖されてきている中で、劇団等の文化芸術団体の活動・発表の場、練習・稽古の場の不足はかなり深刻。活動拠点が他区に移っている状況を捉えて、支援していくことが必要と感じている。

4 区民の捉え方

区の文化施設は、区民中心の登録団体に予約等で優遇措置がある。区民優先の考え方をどのようにするかということもある。

5 区民との協働の視点によるセンターやホールの運営

鑑賞モニター・友の会・地域との連携等参加協働型の施設運営を目指すことが必要なのではないか。

◇新宿文化センター利用者の主な意見（利用者懇談会・アンケート等より）

- (1) 登録団体として、予約や利用のシステム、施設の対応には満足している。
- (2) 利用料の減免や入場料上限の引上げ等、登録団体に対するサービス向上に努めている。
- (3) 優先利用団体間の利用の格差を少なくするため、利用日数を少なくする方法を検討してもよいのではないか。

- (4) 優先団体間で抽選結果の調整ができる現在の抽選方法は望ましい方法である。インターネット予約は望ましくない。

◇区政モニターの見解 (n = 833)

- 1 新宿文化センターの認知度 知っている70%
(40歳以上70%以上、30歳代43%、20歳代以下35%)
- 2 新宿文化センターを利用したことがある 37%
- 3 大ホールで鑑賞したいもの
 - ①話題性の高い公演・有名な人が出演する公演 32.3%
 - ②芸術的な評価の高い公演 22.9%
 - ③作品の解説付のクラシックコンサート・オペラ等 15.2%
 - ④小さい子ども連れでも楽しめる公演 10.8%
- 4 大ホールで見たいジャンル

	最も見たい	複数回答
クラシック音楽	①29.1%	④29.8%
演劇、ミュージカル	②17.3%	①33.4%
ポピュラー音楽	③16.4%	②31.5%
芸能（落語・漫才・講談等）	④9.8%	③29.9%

- 5 公演と料金設定（参考：区・財団の主催事業の平均料金2,354円）
 - ①料金が高くても良質の公演 50.8%
 - ②料金を安くしてまずまずの質の公演 42.9%
- 6 新宿文化・国際交流財団の認知度
 - ①名前も活動も知っている 5.5%
 - ②名前は知っているが活動は知らない 27.9%
 - ③名前も活動もしらない 64.7%

◇指定管理施設としての新宿文化センターの評価

- (1) 地域文化団体や定期利用団体に対し、期間前受付システムを適用し、各団体の要望を整理するとともに、利用率・稼働率の向上に努めている。
- (2) 今後は、閉館が予定される区内の他のホールの動向も視野に入れ、貸館と主催事業のバランス、多様な催事の受け入れ、適正な利用料金の設定等について検討していくことが求

められる。

- (3) [区民参加型] [区民企画型] [独創的鑑賞型] [地域ネットワーク型] の4つの柱を設定したホール運営が行われているが、開館30周年を迎え、ホールの特質やこれまでの活動経過をもとに今後のホールの方向性について議論すべき時期にある。
- (4) 都内の競合施設の事業展開等を充分調査し、ホールの特質に合致した新宿文化センターならではの企画をさらに打ち出していくことが求められる。
- (5) ミュージカル・ジャズ等、このホールの個性となりつつある分野を伸ばすとともに、合唱等利用団体が多い分野についても連携を強化していく必要がある。また、ホールの事務事業等にボランティアを導入する等、区民との協働を図ることも視野に入れるべき。
- (6) 事業のラインナップが固定化されている。事業の見直しについては、観衆の志向や流行、類似施設の動向等を調査する等して、事業再編に向けたイメージ作りを行う等、準備を進める必要がある。主催事業全般について入場者数が伸び悩んでいる点についても大きな問題である。
- (7) ホールの方向性については、設置者である区の考えも打ち出していくべき。
区内の老舗ホールの閉館が決まる等、文化センターを取り巻く環境を十分に認識し、区と指定管理者が連携して、ホールの将来像を構築していくことが必要である。

◇インタビュー調査等

- (1) コマ劇場・厚生年金会館をはじめとして多くの劇場・ホールが閉鎖されてきている。活動・発表の場、練習・稽古の場の不足はかなり深刻。劇団等の活動拠点が他区に移っている。
- (2) 公共施設で連続して活用できる発表の場があるとよい。毎朝晩、舞台の組み立てと解体を繰り返すのは物理的に不可能に近い。
- (3) 活動の発表の場が欲しい。発表の場は団体の目標・意欲を高める。練習の場がほしい。最新の設備より空間が必要。

6 議会の意見

- (1) これまで、大衆芸能の開催等区民の要望があっても受け入れず、設置目的を忠実に事業展開され、文化振興に一定の役割を果たしてきた施設であるが、「わらび座」とのミュージカルの共同制作を契機に、一時的な事業展開としてではなく、新宿文化センターの事業の拡大を図っていくべきである。
- (2) ホールとしての目標やテーマ性、文化芸術事業のラインナップについて、しっかりと打ち出していくべきである。
- (3) 歌舞伎町のシンボルともいえる新宿コマ劇場の閉館や平成21年度末には東京厚生年金会館も閉館の予定である。周辺環境の大きな変化もある中で、開館30周年を迎える文化センターは、区民の文化芸術振興の拠点であると同時に、抜本的なあり方を検討すべきときに来ている。